

RPPC メールマガジン 第 862 号

リサイクルポート推進協議会（令和 3 年 3 月 3 日）

■先週・今週の事務局からのお知らせ

・令和 2 年度 第 3 回 広報部会

3 月 10 日（水）15:00～16:30 オンライン併用開催（Webex）

・令和 2 年度 循環資源技術説明会（国土交通省 東北地方整備局対象）

3 月 26 日（金）13:30～15:15 オンライン開催（Microsoft Teams）

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. エネ庁・港湾局、洋上風力導入へ合同会議。促進区域評価法加速化方策

資源エネルギー庁ならびに国土交通省港湾局は 2 月 17 日、「総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会／電力・ガス事業分科会再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会洋上風力促進ワーキンググループ（第 7 回）」ならびに「交通政策審議会港湾分科会環境部会洋上風力促進小委員会（第 8 回）」の合同会議を開催した。再エネ海域利用法に基づく洋上風力発電等の促進区域指定に関する評価プロセスのあり方や、案件形成の加速化、事業者からの規制改革要望等を踏まえた事業環境改善の方向性等について検討した。

2. 横浜港、新年度予算で 323 億円。新本牧地盤改良や本体工など

横浜市は令和 3 年度予算案の港湾整備事業費会計で新本牧ふ頭の整備に 323 億 1213 万円を計上した。水深 18m 岸壁と護岸の地盤改良、本体工等を進める。

予算の内訳は新本牧ふ頭整備費（新本牧ふ頭第 1 期地区整備事業費）199 億 3200 万円、新本牧ふ頭整備費負担金（国直轄事業負担金）81 億 9,760 万円、建設発生土受入事業費 41 億 8,253 万円。

横浜市が施行主体の第 1 期地区は造成面積約 38ha。土地利用はロジスティクス用地、緑地等。令和元年 12 月に着工し、事業スケジュールは令和元年度から約 10 年程度。

新年度は護岸の整備のための地盤改良や護岸本体となるケーソン製作・据付工事の

他、埋立工事に着手する。

整備では、中央新幹線首都圏区間のトンネル掘削土砂を活用するとともに護岸整備費に受益者負担を導入する。

3.大阪港、北港南航路・泊地等浚渫。今後航路部も工事追加へ

近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所は令和2年度第3次補正予算で、大阪港北港南地区航路・泊地（マイナス16m）、並びに航路等に係る浚渫事業に予算計上されたことから、新年度早期に関係工事を発注していく。現在、大阪港北港南地区航路・泊地について入札手続きを開始しているほか、航路浚渫についても発注手続きを開始する。いずれもWTO対応工事になり、大阪港北港南地区航路・泊地（マイナス16m）等浚渫工事は、15億円以上30億円未満工事。また大阪港北港南地区航路（マイナス16m）浚渫工事は6・9億円以上、15億円未満。

一方、これから入札手続きに入る大阪港本航路となる夢洲東地先の水深16m化工事は、過年度に実施し中断していたが再開する。3年度は約30万立方mの浚渫を予定している。

4.中国地域港湾の将来像示す。資源・エネの供給拠点形成等

中国地方整備局は、「中国地域港湾の中長期構想」を策定した。同構想は世界と地域とを繋ぐ中国地域港湾の実現を目標に、西日本を牽引する資源・エネルギーの受入・供給拠点の形成等を掲げている。港湾管理者による港の将来についての検討や短期的な港湾計画策定、また企業が工場立地や港湾物流との関りにおいて検討する際の参考として活かしてもらおう。

将来像では、「アジア地域及び国内地域との交流・交易により地域経済の持続的発展を支える中国地域のゲートウェイ」とし、その方向性では、▽国内屈指の地域産業の成長に資する西日本を牽引する資源・エネルギーの受入・供給拠点の形成、▽アジア諸国との物流拠点として中国地域のモノづくり産業のグローバルサプライチェーンを支える国際海上輸送ネットワークの構築・拡充。

また、「世界中の人々を惹きつける多種多様な資源をネットワークさせる中国地域のゲートウェイ」として、▽観光・交流機能の強化、▽日本海・瀬戸内海の美しい海域環境の保全再生・創造。

5. 苫小牧港、管理組合が経営戦略。岸壁・荷役機械の整備等

苫小牧港管理組合は、港湾整備事業経営戦略（案）をまとめた。3月に経営戦略を策定し、計画期間は令和3年度～12年度。

ハード整備では岸壁やふ頭用地の新規整備、荷役機械の新規導入などを挙げている。

経営の基本方針では、国際拠点港湾として、物流、交流・環境、安全の3点を目標に港湾を運営していく。

※港湾空港タイムス3月01日号から編集

※新たに導入したPCとメーラーの環境では、添付ファイルが「***.dat」となったり、不要な添付ファイルが付く場合があります。受信ファイルに不具合がある場合は、気兼ねなくその旨ご指摘ください

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////